

人口ビジョン データ修正について

1. 人口ビジョンに記載のあるデータの修正

1. 志摩市の人口推移

1) 説明文（修正なし）

志摩市の人口の推移を示したグラフが、図1です。

大正9年に44,013人だった本市の人口は、第1次ベビーブーム（昭和22～24年）を経て、昭和22年には60,391人となり、昭和30年には66,628人となってピークを迎えました。その後、高度経済成長期の第1人口移動期（昭和35～48年）（※1）を経て人口が若干減少するものの、第2次ベビーブーム（昭和46～49年）を経て人口は若干増加します。その後、第2人口移動期（昭和55年～平成5年）（※2）には顕著な人口の減少は見られませんが、第3人口移動期（※3）に入る平成12年から急速な人口減少が続いています。

このように、若干の増減はありますが、本市の人口は半世紀以上前から減少を続けており、近年その減少に拍車がかかっています。

2) 図・表

平成27年実施の国勢調査結果を追加、人口移動期（第1期～第3期）を明示

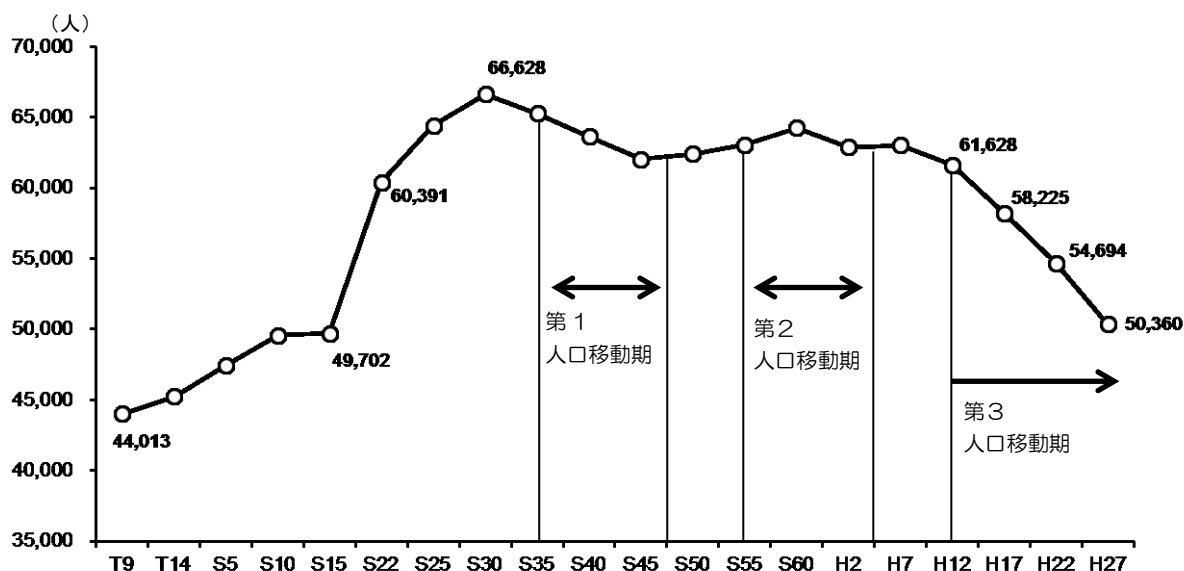


図1. 志摩市の人口推移（資料出所：国勢調査）

3) 既存掲載ページ

3ページ 「1-1. 総人口の推移」

2. 旧町別の人口の変化率

1) 説明文

平成12年の人口を基準に、平成27年までの15年間で人口がどのように変化してきたかを地区ごとに示したグラフが、**図7**です。

阿児町は、人口の減少が最も小さい地区で、平成27年の人口は、平成12年時点の95%程度を維持しています。総人口の減少とほぼ同じペースで人口減少が進んでいる地区が磯部町で、平成27年の人口は、平成12年時点の82%程度に減少しています。一方、浜島町、大王町及び志摩町の3地区については人口減少の進行が速く、平成27年度の人口は、平成12年時点の74%程度まで減少しています。

2) 図・表

平成27年のデータを追加

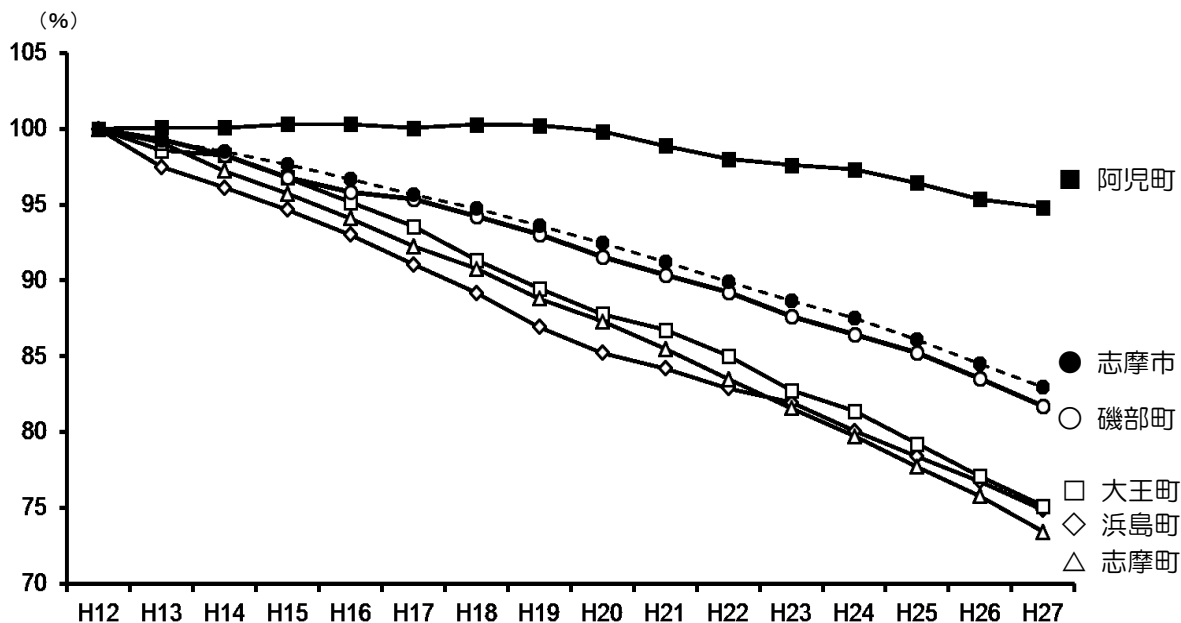


図7. 旧町別の人口の変化率（資料出所：志摩市 住民基本台帳）

3) 既存掲載ページ

8 ページ 「1-4. 地区ごとの人口の推移」

3. 旧町別の人口の変化

1) 説明文

平成 12 年からの市内各地区の人口推移を示した表が、表 2 です。

平成 12 年から平成 27 年まで人口の年間変化率は、浜島町で-1.8%、大王町で-1.8%、志摩町で-1.9%、阿児町で-0.3%、磯部町で-1.3%となり、市全体では-1.2%となっています。5地区の平均年間変化率が-1.4なのに対して、総人口の変化率は-1.2%となっており、総人口の方が変化（減少）の幅は小さくなっています。これは、5地区の人口の平均変化率に、人口減少の進行が速い浜島町、大王町及び志摩町から阿児町への人口移動が含まれているためと考えられます。

2) 図・表

平成 27 年のデータを追加

| | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 浜島町 | 6,186 | 6,031 | 5,947 | 5,856 | 5,754 | 5,634 | 5,517 | 5,379 | 5,272 | 5,210 | 5,128 | 5,070 | 4,955 | 4,850 | 4,749 | 4,633 |
| 大王町 | 8,857 | 8,730 | 8,704 | 8,571 | 8,428 | 8,287 | 8,090 | 7,924 | 7,776 | 7,684 | 7,531 | 7,329 | 7,209 | 7,018 | 6,830 | 6,656 |
| 志摩町 | 15,240 | 15,101 | 14,818 | 14,590 | 14,341 | 14,062 | 13,837 | 13,537 | 13,305 | 13,027 | 12,724 | 12,437 | 12,152 | 11,847 | 11,549 | 11,190 |
| 阿児町 | 23,492 | 23,510 | 23,509 | 23,567 | 23,565 | 23,504 | 23,557 | 23,544 | 23,452 | 23,229 | 23,024 | 22,931 | 22,865 | 22,653 | 22,403 | 22,276 |
| 磯部町 | 9,652 | 9,586 | 9,485 | 9,343 | 9,248 | 9,204 | 9,097 | 8,983 | 8,837 | 8,721 | 8,613 | 8,457 | 8,345 | 8,227 | 8,061 | 7,890 |
| 総人口 | 63,427 | 62,958 | 62,463 | 61,927 | 61,336 | 60,691 | 60,098 | 59,367 | 58,642 | 57,871 | 57,020 | 56,224 | 55,526 | 54,595 | 53,592 | 52,645 |

表 2. 旧町別の人口の変化（資料出所：住民基本台帳）

3) 既存掲載ページ

9 ページ 「1-4. 地区ごとの人口の推移」

4. 志摩市各地区の人口の変化率（H12 と H27）

1) 説明文

志摩市内の42地区における平成12年と平成27年の人口の変化率を示したグラフが、**図8**です。15年間でどれだけ人口が変化しているかを示しており、100%に満たない場合は、人口が減少しているということになります。

志摩市の総人口については、83%程度に減少しているのに対して、全地区の半数を超える28地区で人口が80%以下まで減少しています。

特に人口の減少が大きい地区は、間崎（41%）、渡鹿野（53%）、御座（65%）の順となっており、離島や半島の突端という地理的条件の厳しい地区での人口減少が急速に進行していることがわかります。

一方で、平成27年の人口が平成12年時点に比べてほとんど変わらないか、微増している地区が、鵜方（103%）、築地（103%）、神明（102%）、的矢（100%）の4地区です。神明及び鵜方については、阿児町への人口集中によるものと考えられます。また、築地及び的矢における人口の微増は、平成10年代に入ってから始められた宅地開発や分譲マンションの販売による効果だと考えられます。

なお、電車の停車駅がある地区は7地区（五知、沓掛、上之郷、川辺、穴川、鵜方及び神明）ありますが、人口減少が見られない地区は鵜方と神明の2地区のみで、他の5地区は人口が減少しています。

2) 図・表

平成12年と平成27年の比較データに更新

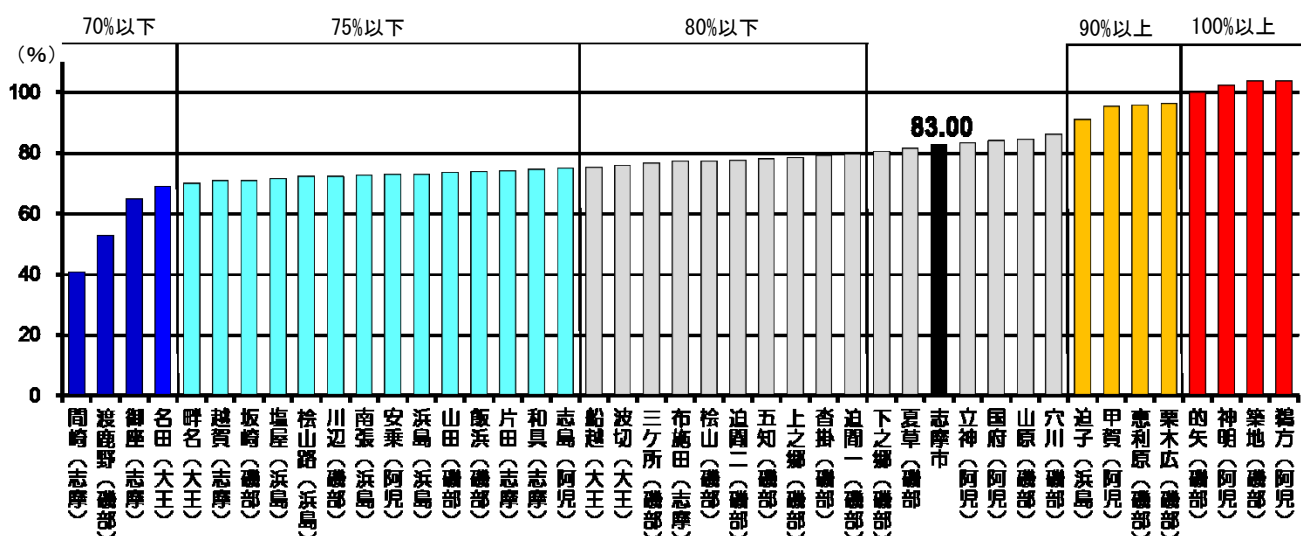


図8. 志摩市各地区の人口の変化率（H12 と H27）（資料出所：住民基本台帳）

3) 既存掲載ページ

10 ページ 「1-4. 地区ごとの人口の推移」

5. 旧町別の高齢化率の推移

1) 説明文

市内各地区の高齢化率の推移を示したグラフが、**図 10**です。

人口減少の進行が速い浜島町、大王町及び志摩町の3地区では、高齢化率が40%を超えており、他の地区よりも速く高齢化が進行していることがわかります。磯部町の高齢化率は36%程度となっており、志摩市全体とほぼ同じ水準となっています。一方、阿児町の高齢化は他の4地区より低いものの平成27年度に30%を超えました。

2) 図・表

平成27年のデータを追加

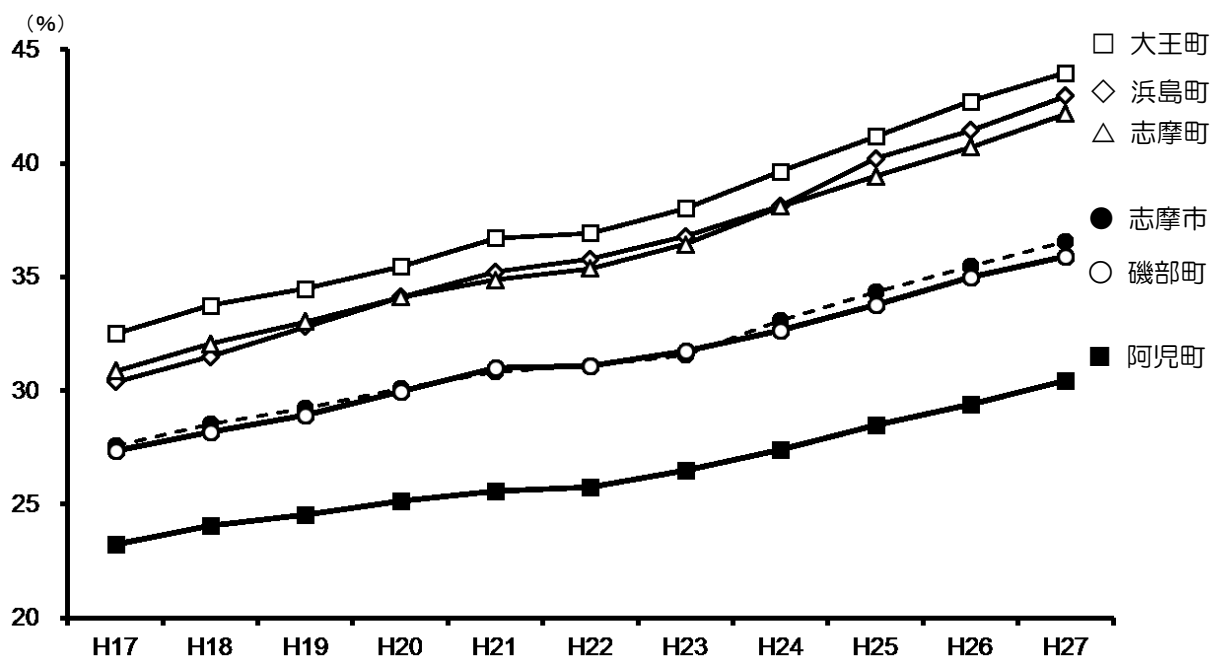


図 10. 旧町別の高齢化率の推移 (資料出所: 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

12 ページ 「1-5. 高齢化率の推移」

6. 志摩市各地区の高齢化率

1) 説明文

志摩市内の42地区における平成27年度の高齢化率を示したグラフが、図11です。

36地区で高齢化率が30%を超えており、そのうち20の地区では高齢化率が40%を超えています。間崎(73.3%)や渡鹿野(53.7%)といった離島の高齢化率が特に高くなっています。一方で、高齢化率が30%未満の地区は6地区あり、鵜方(25.7%)、築地(28.4%)、神明(29.0%)といった人口減少をしていない地区が含まれます。しかし、42地区の人口の変化率を示した図9と比較すると、松山や沓掛など、人口は志摩市の平均的な水準で減少しているものの高齢化率が低い地区や、的矢や迫子など人口を比較的維持しているものの高齢化率が高い地区もあります。

これらのことから、人口減少が進行しやすい地理的条件が厳しい地区では高齢化の進行が速く、人口が集中する地区では高齢化の進行が遅くなるという傾向はあるものの、必ずしも人口減少と高齢化が同時に起こっているわけではないことが示唆されます。顕著な人口減少をしていない地区で、高齢化率に改善が見られれば、転入者などにより地区の若返りが図られている可能性があり、人口減少が顕著ではない地区であっても、高齢化率が高ければ、今後急速な人口減少が起こる可能性が高いと考えられます。

2) 図・表

平成27年のデータに更新

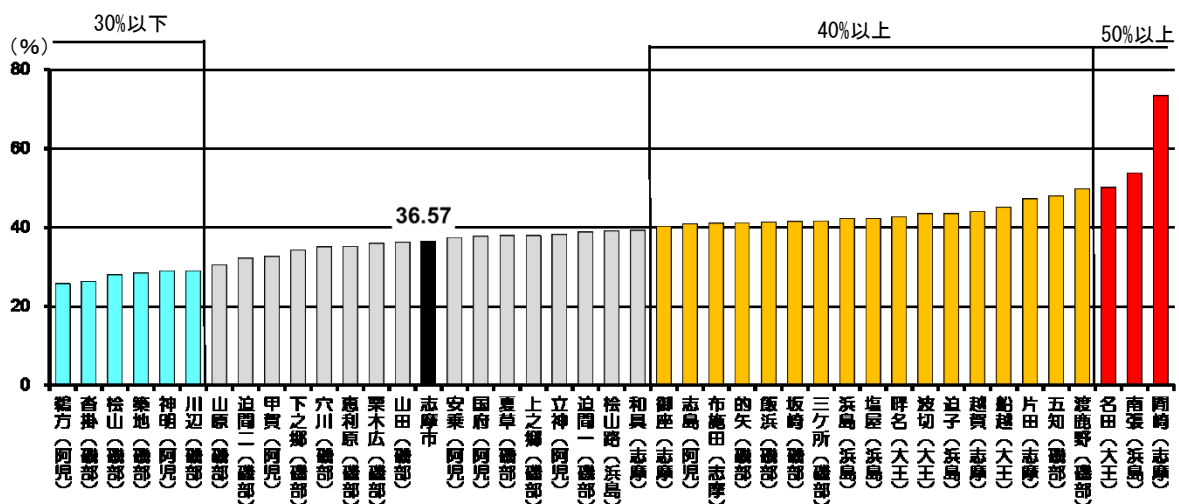


図11. 志摩市各地区の高齢化率 (資料出所: 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

13 ページ 「1 - 5. 高齢化率の推移」

7. 志摩市における自然増減の推移

1) 説明文

人口は、増えた人の数と減った人の数で決まります。その増減のうち、新たに生まれることにより増えた人の数（出生数）と、亡くなることにより減った人の数（死亡数）による増減を「自然増減」と呼びます。志摩市の自然増減を示したグラフが、**図 12**です。

昭和 59 年から平成元年頃までは出生数が死亡数を上回る自然増の状況でしたが、その後出生数と死亡数が均衡し、平成 7 年頃に自然減の状況に転じてからは、自然減に数が増加しています。平成 20 年からの 7 年間では、平均 482 人／年の自然減となっています。

2) 図・表

平成 26 年のデータを追加

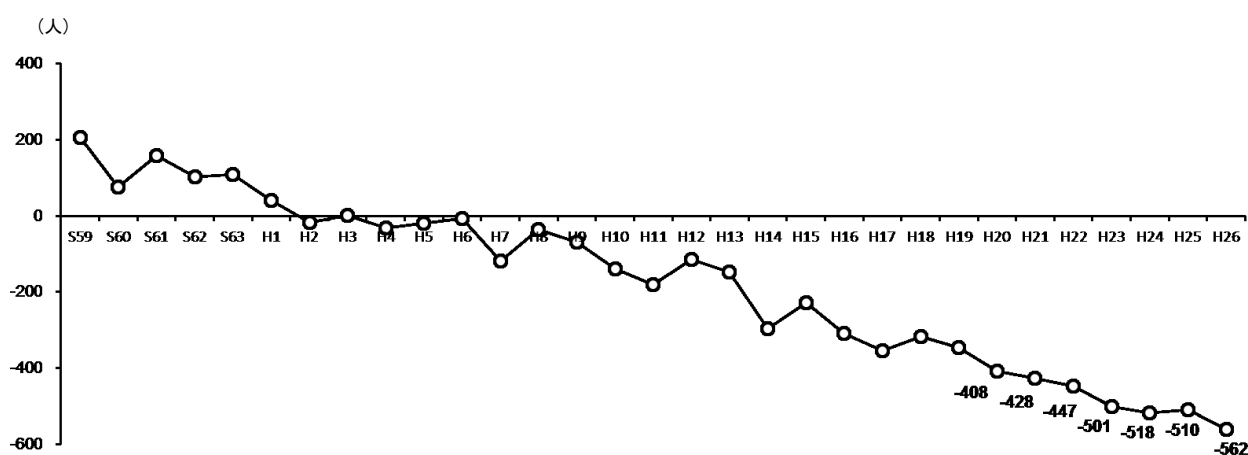


図 12. 志摩市における自然増減の推移（資料出所：三重県月別人口調査）

3) 既存掲載ページ

14 ページ 「2-1. 生まれてくる人数と亡くなる人数」

8. 志摩市における出生数と死亡数の推移

1) 説明文

出生数と死亡数の推移を示したグラフが、**図 13** です。

昭和 59 年に 719 人であった出生数は、平成 26 年には 240 人にまで減少しています。平成 20 年からの7 年間の平均年間出生数は 294 人です。一方、昭和 59 年に 513 人であった死亡数は、平成 26 年に 802 人に増加しています。平成 20 年からの7 年間の平均年間死亡数は 776 人です。出生数が 400 人以上減少したのに対して、死亡数は 200 人以上の増加となっており、出生数の減少が自然減を強める要因となっています。

2) 図・表

平成 26 年のデータを追加

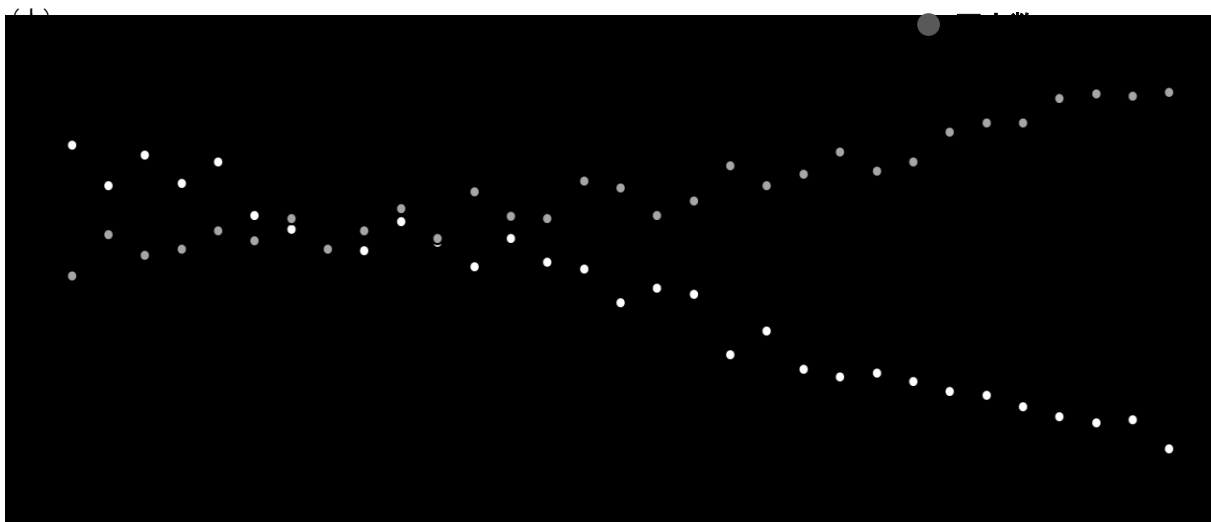


図 13. 志摩市における出生数と死亡数の推移（資料出所：三重県月別人口調査）

3) 既存掲載ページ

14 ページ 「2-1. 生まれてくる人数と亡くなる人数」

9. 志摩市、三重県及び全国の合計特殊出生率の推移

1) 説明文

出生数には、1人の女性が生涯に産む子供の数（合計特殊出生率）と、出産適齢期の女性の人口の2点が、大きく影響します。志摩市の合計特殊出生率の推移について、全国及び三重県とも比較したグラフが、**図 14** です。

志摩市の平成 26 年時点の合計特殊出生率は 1.60 となっており、全国の 1.42、三重県の 1.45 と比較すると高い値となっていますが、平成 20 年からの 7 年間の平均値を比較すると、全国、三重県、志摩市の順に 1.40、1.45、1.42 となっており、大きな差は見られません。

図 5 及び 6 で示したとおり、志摩市の出産適齢期の女性の人口は減少しており、人口に占める割合も小さくなっています。したがって、志摩市における出生数が減少している要因は、出産適齢期の女性の人口が減少しているためだと考えられます。

2) 図・表

平成 26 年のデータを追加

(合計特殊出生率)

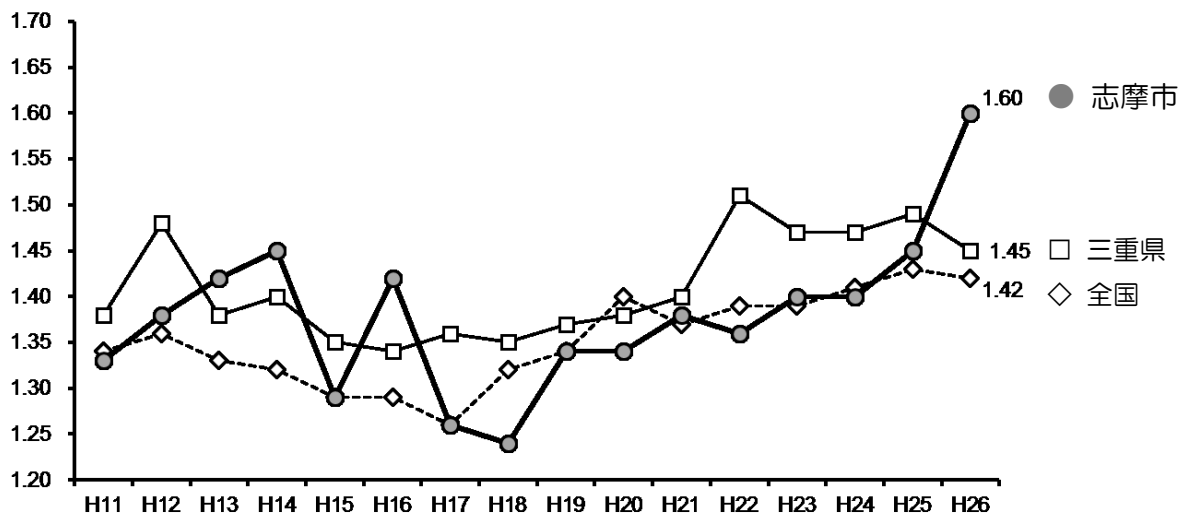


図 14. 志摩市、三重県及び全国の合計特殊出生率の推移

(資料出所：衛生統計年報(平成 11 年～平成 15 年)、三重県資料(平成 16 年以降))

3) 既存掲載ページ

15 ページ 「2-1. 生まれてくる人数と亡くなる人数」

10. 志摩市における社会増減の推移

1) 説明文

人口を決める人の増減のうち、志摩市に引っ越してくる人の数（転入数）と志摩市から出ていく人の数（転出数）による増減を「社会増減」と呼びます。志摩市の社会増減を示したグラフが、**図 16**です。

昭和 59 年から平成 3 年までの期間は、年平均 200 人程度の転出者超過（社会減）が続き、その後は平成 5 年に転入者超過（社会増）を迎えますが、平成 7 年から平成 10 年にかけて年平均 120 人程度の社会減となります。平成 11 年に一時的に社会増になりますが、平成 12 年以降には年平均 400 人程度の社会減に転じ、それ以降、現在もそのまま社会減が続いています。平成 20 年からの 7 年間では、平均 428 人／年の社会減となっています。

なお、平成 5 年頃に大きく社会増に転じていますが、これは志摩スペイン村の開業（平成 6 年 4 月）に向けて転入者が増加したことによると考えられます。

2) 図・表

平成 26 年のデータを追加

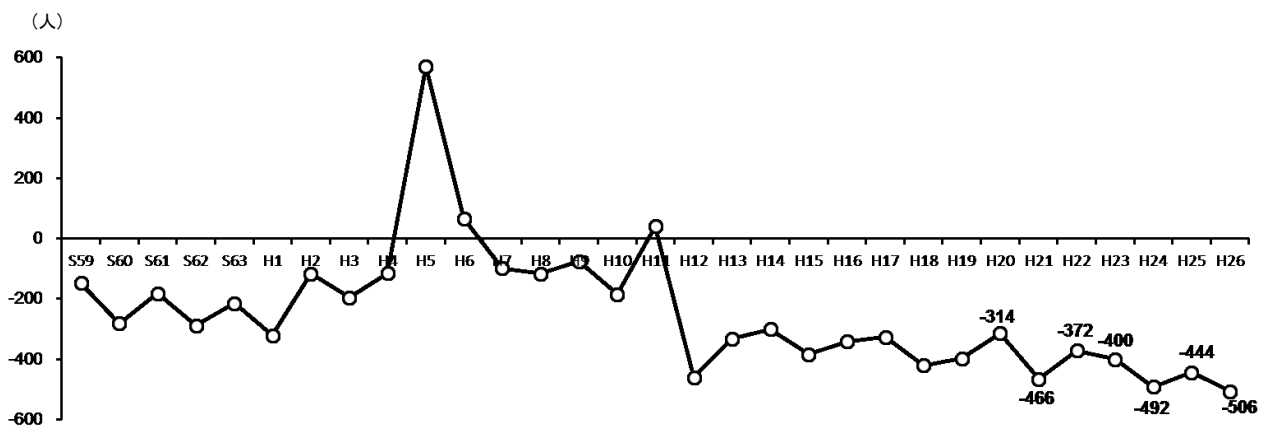


図 16. 志摩市における社会増減の推移（資料出所：三重県月別人口調査）

3) 既存掲載ページ

17 ページ 「2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人」

11. 志摩市の転入者と転出者の推移

1) 説明文

転入数と転出数の推移を示したグラフが、**図 17**です。

5町が合併する前の平成15年までの転入数と転出数には旧町間の移動者数が含まれますが、合併後の平成16年以降は旧町間の移動者数を含まません。そのため、平成15年以前の転入数と転出数は、平成16年以降に比べて多くなっています。平成16年以降の転入数は、平成20年まで1,200人程度で推移していましたが、平成21年以降には1,000人程度に減少し、現在もその傾向が続いています。一方、平成16年以降の転出数は、1,700人弱から1,400人程度まで緩やかに減少し、平成21年以降1,400人程度で推移しています。平成20年以降の転入数と転出数を比較すると、年平均1,033人の転入と年平均1,461人の転出があり、結果として年間400人程度の社会減になっています。

2) 図・表

平成26年のデータを追加

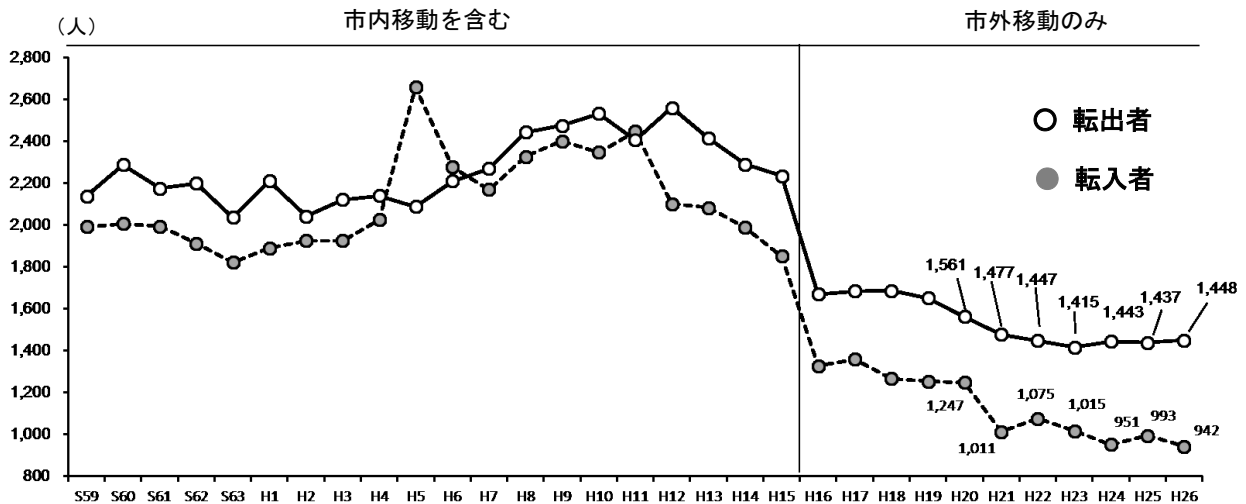


図 17. 志摩市の転入者と転出者の推移 (資料出所：三重県月別人口調査)

3) 既存掲載ページ

18 ページ 「2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人」

12. 平成 25 年から平成 27 年の志摩市への転入者の来訪元

1) 説明文

平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の住民基本台帳の情報から、転入者がどこから来ているかをまとめたグラフが、**図 18** です。

転入者の **40.4%** が三重県内からの転入となっています。県外については愛知県、大阪府及び関西 3 府県（兵庫県、京都府、奈良県）からの転入者が **29.9%** を占めています。なお、東京都からの転入者は **4.4%** となっています。県内の転入者については、伊勢市、鳥羽市及び南伊勢町からの転入が **42.2%**、津市及び松阪市からの転入が **25.1%** となっています。

県内からの転入が多く、県外からの転入も比較的近隣の府県からの転入が多くなっています。また、県内からの転入についても比較的近隣の市町からの転入が多くなっています。

2) 図・表

平成 25 年から平成 27 年の集計データに更新

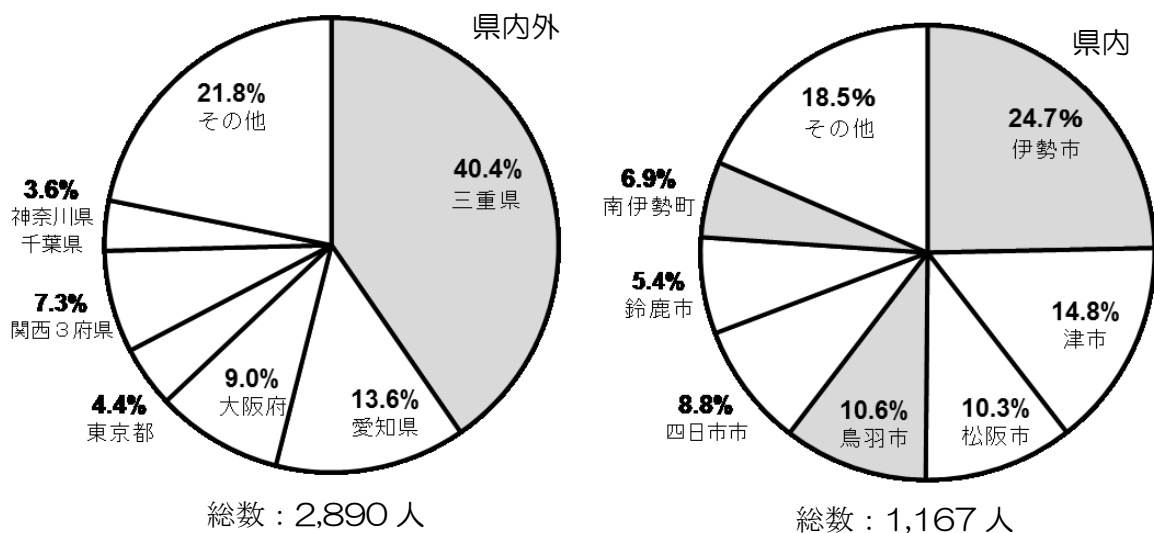


図 18. 平成 25 年から平成 27 年の志摩市への転入者の来訪元

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

19 ページ 「2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人」

13. 平成 25 年から平成 27 年の志摩市からの転出者の行き先

1) 説明文

転入者と同様に、平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の住民基本台帳の情報から、転出者がどこに行っているかをまとめたグラフが、図 19 です。

転出者の 47.2%が三重県内への転出となっています。県外については愛知県、大阪府及び関西 3 府県（兵庫県、京都府、奈良県）への転出者が 27.6%を占めています。東京都への転出は 4.9%となっています。県内への転出者については、伊勢市及び鳥羽市への転出が 45.6%、津市及び松阪市への転出が 26.1%となっています。

県内への転出が多く、県外への転出も比較的近隣の府県への転出が多くなっており、転入者と同じ傾向が見られます。また、県内への転出についても比較的近隣の市町への転出が多くなっており、こちらも転入者と同じ傾向が見られます。

2) 図・表

平成 25 年から平成 27 年の集計データに更新

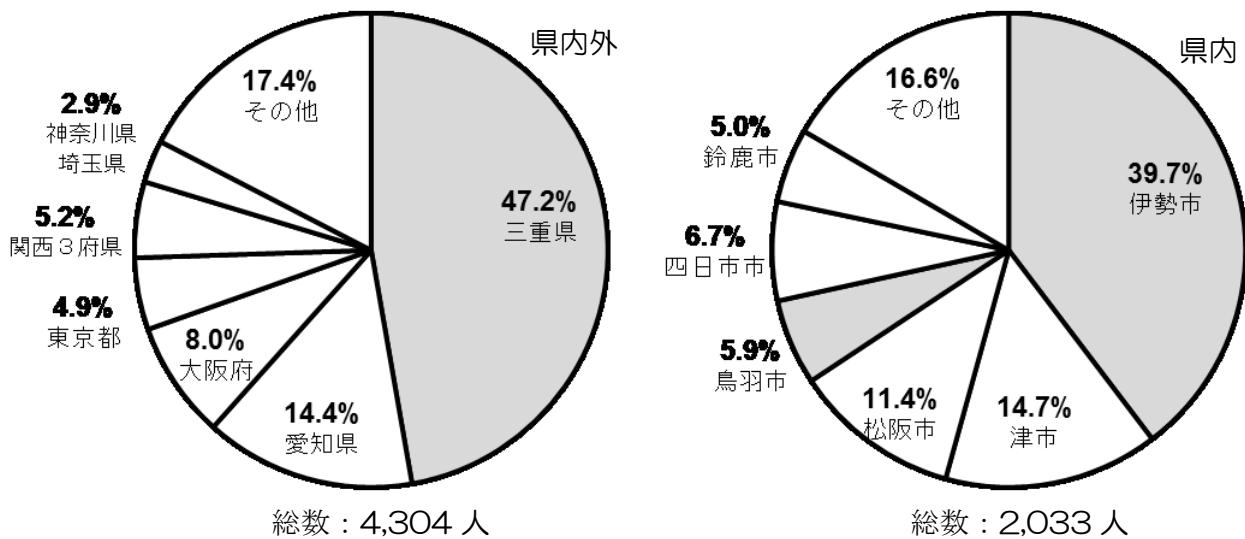


図 19. 平成 25 年から平成 27 年の志摩市からの転出者の行き先

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

3) 既存掲載ページ

20 ページ 「2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人」

14. 年齢層別の転出数と転入数（平成 25 年から平成 27 年の平均値）

1) 説明文

志摩市の社会増減の状況を示すために年齢層別に転入数と転出数をまとめたグラフが、**図 20** です。各年齢層の転入数と転出数は、平成 25 年から平成 27 年の 3 年間の住民基本台帳の情報から算出した平均値となっています。

転入数については、20～39 歳が最も多くなっており、転入数全体の 51.3% を占めています。次いで 0～14 歳及び 40～49 歳の転入数が多く、それぞれ転入数全の 11.5% 及び 11.4% を占めています。

一方、転出数についても、20～39 歳が最も多くなっており、転出数全体の 55.6% を占めています。次いで、15～19 歳、40～49 歳及び 0～14 歳の順で転出数が多くなっており、それぞれ転出数全体の 9.8%、9.5% 及び 8.8% を占めます。

転入と転出の差が大きく、転出超過が顕著な年齢層は、15～19 歳（-95 人）と 20～29 歳（-254 人）となっています。他の年齢層については、転出超過とはなっているものの転入数と転出数の差が三ケタになるような大きな差はありません。また、60～69 歳では転入超過となっています。

2) 図・表

平成 25 年から平成 27 年の平均値に更新

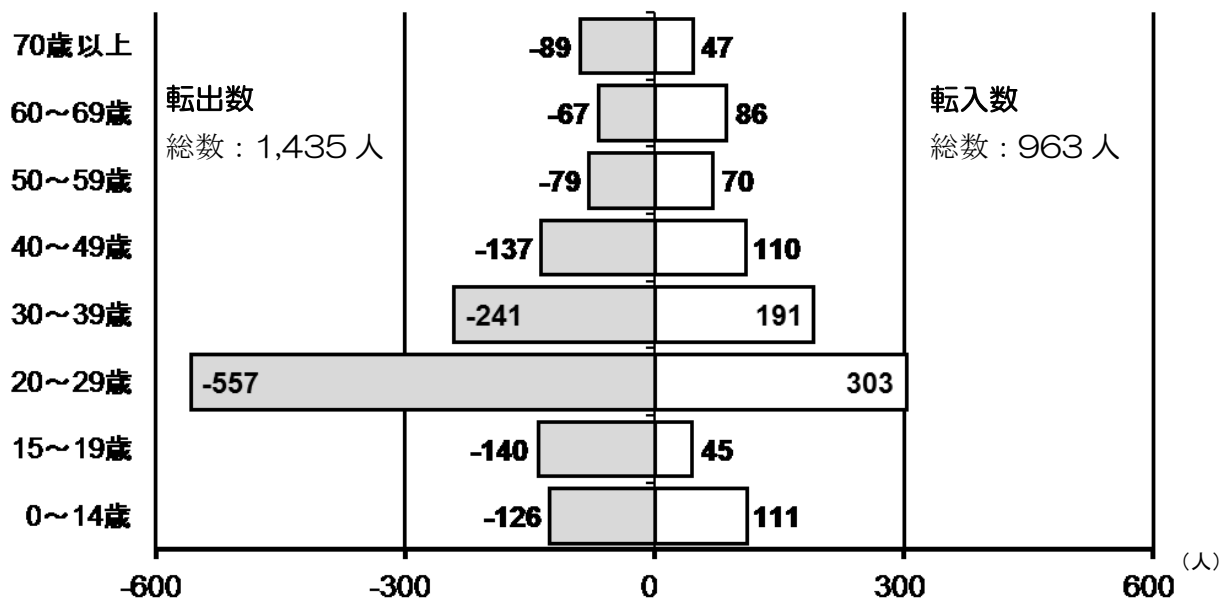


図 20. 年齢層別の転出数と転入数（平成 25 年から平成 27 年の平均値）

（資料出所：志摩市 住民基本台帳）

3) 既存掲載ページ

21 ページ 「2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人」

15. 志摩市の産業生産の推移

1) 説明文

志摩市の産業生産の推移を示したグラフが、**図 22** です。本市の産業生産は、若干の増減はしながらも、平成 13 年から平成 19 年にかけて減少し、さらに平成 19 年から平成 20 年の 1 年で大きく減少しています。一方で、平成 21 年以降はわずかながら増加傾向にあります。

平成 13 年から平成 21 年までは、バブル崩壊後の経済期である「いざなぎ景気」と呼ばれる期間にあたり、非正規雇用、個人や地域間の格差拡大及びワーキングプアといった問題が、社会問題として惹起した時期です。特に平成 19 年から平成 21 年にかけては、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機及び原油価格や原材料の高騰に伴う企業の業績悪化が起こった「リーマンショック」と呼ばれる経済危機が発生した時期であり、日本では、同時期に建築基準法の改正に伴う不況（建基法不況）が発生しています。

2) 図・表

平成 25 年のデータを追加

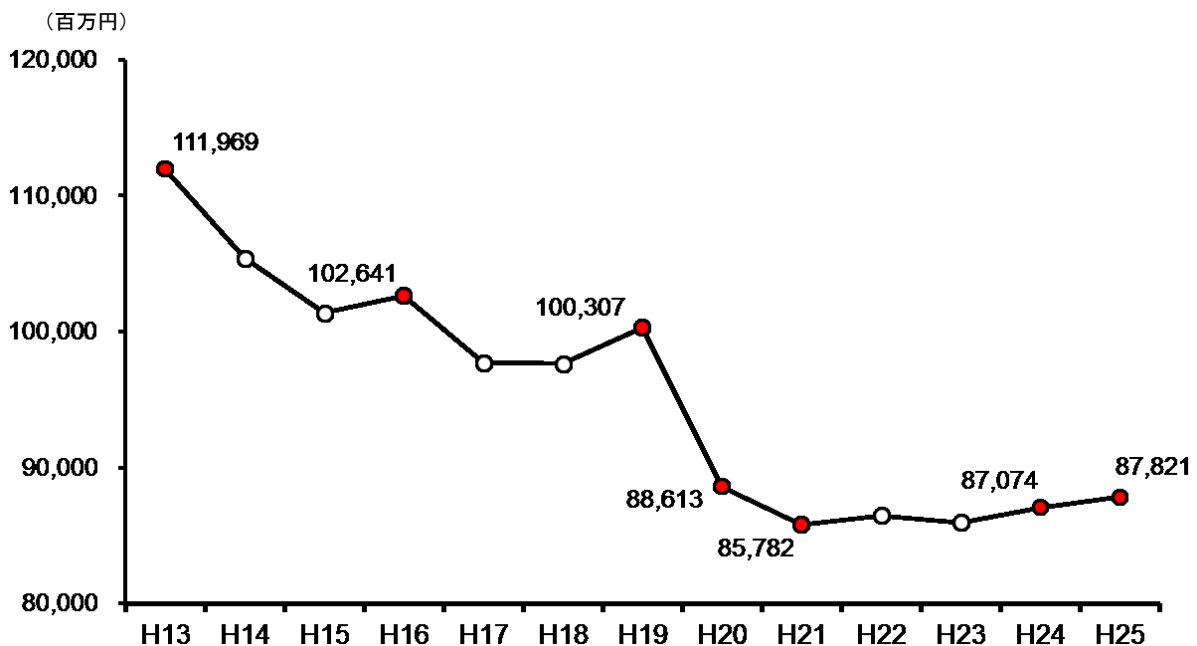


図 22. 志摩市の産業生産の推移

(資料出所：県民経済計算 経済活動別市町内総生産 三重県)

3) 既存掲載ページ

25 ページ 「1-2. 志摩市の産業生産 (経済活動別市町村内総生産)」

16. 志摩市の産業生産額の推移

1) 説明文

各産業の産業生産額の推移をまとめた表が、表5です。

本市における産業生産額の推移を見ると、平成13年から平成19年にかけて各産業における産業生産額は徐々に減少しています。また、特に平成19年から平成20年にかけては、建設業、サービス業、金融・保険業、製造業及び不動産業の順で産業生産額が急減しており、建基法不況や全国的な企業業績の悪化の影響がみられます。このように、平成13年と平成25年の2つの時期の産業生産額を比較すると、不動産業以外の産業生産額は減少しています。

しかし、平成21年から平成25年の産業生産額の推移をみると、農業、水産業、建設業、卸売業・小売業、情報通信業及びサービス業においては産業生産額が増加しています。

2) 図・表

平成25年のデータを追加

| 生産額 (百万円) | 産業 総生産 | 農林水産業 | | | 製造業 | 建設業 | 電気・ガス 水道業 | 卸売・ 小売業 | 金融・ 保険業 | 不動産業 | 運輸業 | 情報 通信業 | サービス業 | |
|--------------|-----------|-------|-------|-----|-------|-------|--------------|------------|------------|-------|--------|-----------|-------|--------|
| | | 農業 | 林業 | 水産業 | | | | | | | | | | |
| 平成13年 | 111,969 | 7,722 | 1,531 | 80 | 6,111 | 9,072 | 17,303 | 7,568 | 13,769 | 6,531 | 5,374 | 3,757 | 5,004 | 35,869 |
| 平成14年 | 105,416 | 7,436 | 1,668 | 65 | 5,703 | 9,748 | 12,249 | 6,721 | 13,779 | 7,041 | 6,462 | 3,620 | 3,933 | 34,427 |
| 平成15年 | 101,372 | 7,653 | 1,703 | 78 | 5,872 | 7,016 | 11,049 | 6,671 | 13,866 | 6,976 | 7,631 | 3,483 | 3,403 | 33,624 |
| 平成16年 | 102,641 | 6,943 | 1,414 | 74 | 5,455 | 9,227 | 11,475 | 6,451 | 13,083 | 6,959 | 8,900 | 3,566 | 2,996 | 33,041 |
| 平成17年 | 97,720 | 6,501 | 1,300 | 74 | 5,127 | 9,952 | 9,104 | 5,795 | 12,216 | 7,212 | 10,146 | 3,464 | 2,788 | 30,542 |
| 平成18年 | 97,649 | 6,206 | 1,275 | 77 | 4,854 | 8,278 | 10,646 | 5,303 | 11,503 | 7,070 | 11,905 | 3,430 | 2,621 | 30,687 |
| 平成19年 | 100,307 | 6,552 | 1,177 | 64 | 5,311 | 9,373 | 12,991 | 5,050 | 11,982 | 6,949 | 10,028 | 3,788 | 2,721 | 30,873 |
| 平成20年 | 88,613 | 5,737 | 1,145 | 69 | 4,523 | 7,613 | 8,897 | 4,184 | 12,032 | 5,428 | 8,821 | 3,817 | 2,735 | 29,349 |
| 平成21年 | 85,782 | 5,258 | 997 | 56 | 4,205 | 6,037 | 8,602 | 4,824 | 12,378 | 5,267 | 7,978 | 3,513 | 2,806 | 29,119 |
| 平成22年 | 86,458 | 5,583 | 980 | 54 | 4,549 | 6,169 | 8,350 | 4,528 | 12,563 | 5,224 | 8,336 | 3,464 | 2,938 | 29,303 |
| 平成23年 | 85,947 | 5,697 | 1,027 | 57 | 4,613 | 6,442 | 7,471 | 3,915 | 12,736 | 4,953 | 8,593 | 3,343 | 3,115 | 29,682 |
| 平成24年 | 87,074 | 5,712 | 1,075 | 49 | 4,588 | 4,431 | 10,004 | 4,135 | 12,768 | 4,621 | 8,021 | 3,323 | 3,196 | 30,863 |
| 平成25年 | 87,821 | 5,437 | 1,051 | 52 | 4,334 | 3,701 | 9,942 | 3,876 | 13,571 | 4,620 | 7,981 | 3,179 | 3,362 | 32,152 |

表5. 志摩市の産業生産額の推移

(資料出所：県民経済生産 経済活動別市町内総生産 三重県)

3) 既存掲載ページ

26 ページ 「1-2. 志摩市の産業生産（経済活動別市町村内総生産）」

17. 志摩市の産業生産に占める産業ごとの産業生産の割合

1) 説明文（修正なし）

産業総生産額に占める各産業生産の割合の推移を示したグラフが、**図 23**です。サービス業が、産業総生産額の 35%程度を占める産業となっています。その他の産業については、卸売業・小売業が 15%弱、建設業が 11%程度、不動産業が 9%程度、製造業及び水産業がそれぞれ 5%程度を占めており、サービス業を含む 6つの産業で産業総生産額の 80%程度が占められています。また、これらの産業生産が産業総生産額に占める割合については、平成 13 年以降ほぼ同じ水準で推移しています。ただし、平成 13 年に産業総生産額の 5%程度を占めていた不動産業は、平成 18 年に 10%を超えてから近年は 10%弱を占めるようになっています。

2) 図・表

平成 25 年のデータを追加

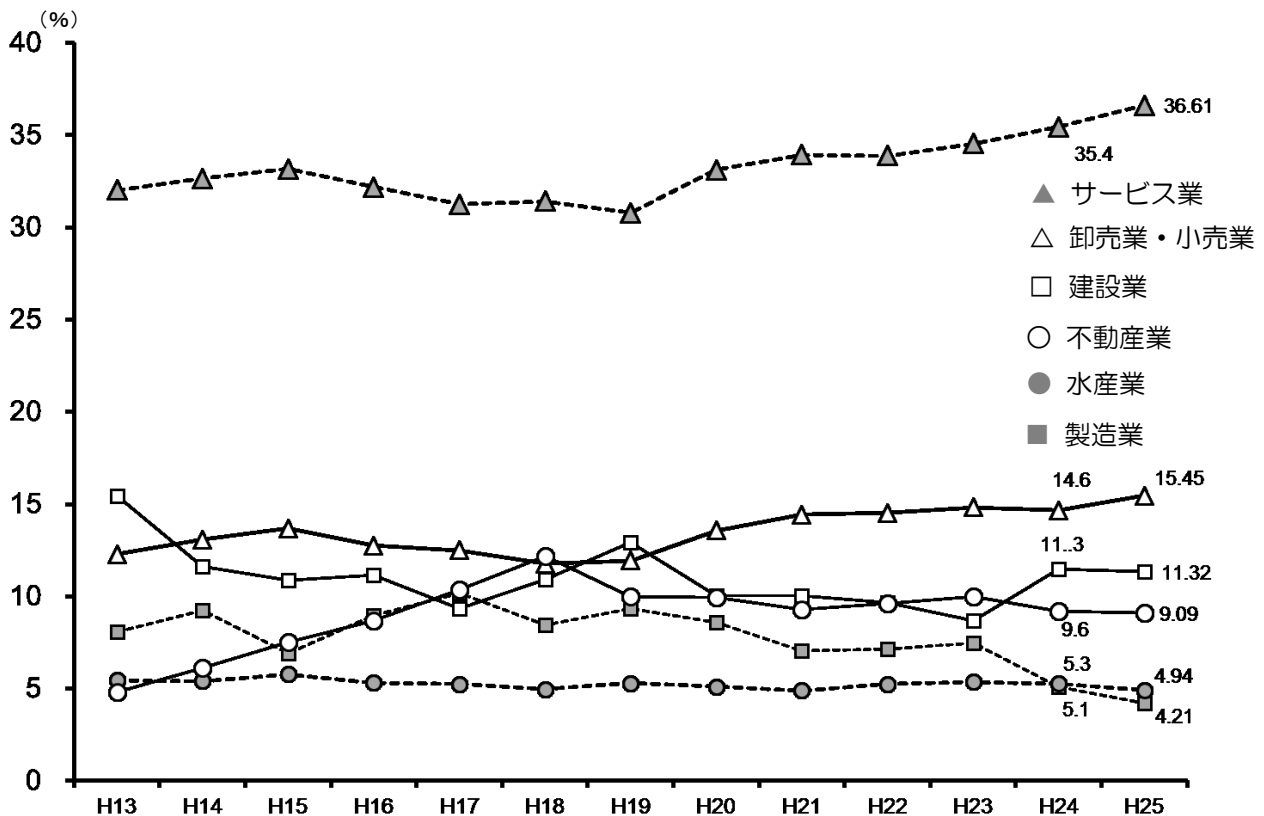


図 23. 志摩市の産業生産に占める産業ごとの産業生産の割合

(資料出所：県民経済生産 経済活動別市町内総生産 三重県)

3) 既存掲載ページ

27 ページ 「1-2. 志摩市の産業生産（経済活動別市町村内総生産）」

18. 志摩市の産業・雇用創造チャート

1) 説明文（修正なし）

志摩市の産業構造の特徴を示す産業・雇用創造チャートが、**図 24** です。産業・雇用創造チャートは、地域の産業を雇用の観点から2つの軸で整理したものです。

これによると本市の雇用を担う産業の上位5位は、宿泊業、保険・福祉・介護事業、娯楽業、飲食店及び食料品小売業となっており、図 21 で示されるサービス業に従事する人が多いという状況を裏付けるものとなっています。一方、地域に特徴的な産業については、水産養殖業、漁業、宿泊業、水運業及び娯楽業となっています。昭和40年から漁業者の数は大きく減少してしているものの地域の自然資源を生かした産業として今でも地域に特徴的な産業であることがわかります。そして、志摩市の雇用を担いつつ地域に特徴的な産業は、宿泊業と娯楽業の2つとなっています。これは、志摩市の代表的な産業が観光関連産業であるためだと考えられます。

なお、本市の娯楽業は、公園・遊園地、遊戯場及びスポーツ施設提供業であり、具体的には志摩スペイン村、パチンコ店及びゴルフ場が娯楽業の雇用を担っています。

2) 図・表

平成26年のデータに更新

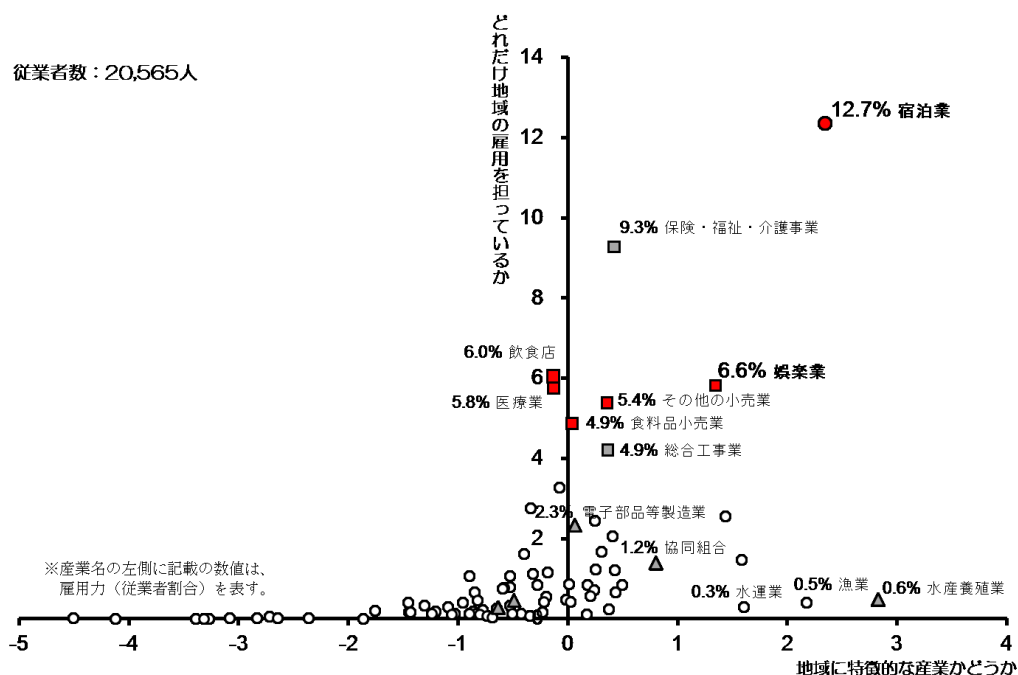


図 24. 志摩市の産業・雇用創造チャート（平成26年経済センサス）

（資料出所：総務省統計局 産業・雇用創造チャート）

3) 既存掲載ページ

28 ページ 「1 - 3. 志摩市の産業構造」

19. 平成 27 年の志摩市における観光入込客数

1) 説明文

志摩市の雇用や産業生産を支える産業は、観光関連産業として成立しているものと考えられるため、地域経済を把握するうえで観光について特記します。

志摩市を訪れる観光客数は、平成 17 年より全国観光統計基準に合致する市内 19 の調査対象地点への入込客数として、日帰り客と宿泊客に分けて集計されています。平成 27 年の集計結果を示した表が、表 7 です。

これによると、年間 380 万人近くの観光客が本市を訪れていることとなります。

なお、19 の調査地点は、年間の入込客数が 5 万人以上または特定時期（月間）の入込客数が 5 千人以上となる観光地点という基準に合致する地点やイベントが対象となっていることに加え、入込者数の総数は調査地点を訪れた人が重複されてカウントされた延べ数となっています。そのため、当該調査で得られる入込客数は、実態を強く反映しているものの志摩市を訪れる観光客の実数を把握するものではないことに留意する必要があります。

2) 図・表

平成 27 年のデータに更新

| 地区別 | 調査地点 | 日帰り | 宿泊 | 入込客数 |
|-----|---------------------|-----------|-----------|-----------|
| 磯部町 | 磯部旅館街 | 28,099 | 363,290 | 2,053,812 |
| | 渡鹿野島 | 4,055 | 57,439 | |
| | 志摩スペイン村 | 1,275,000 | | |
| | 道の駅「伊勢志摩」 | 241,383 | | |
| | 伊雑宮 | 76,267 | | |
| | 志摩ロードパーティ | 8,279 | | |
| 阿児町 | 阿児旅館街 | 12,229 | 506,289 | 903,438 |
| | 英虞湾景観 | 108,494 | | |
| | 志摩マリンランド | 159,335 | | |
| | 賢島エスパーニャクルーズ | 105,283 | | |
| | TOTOジャパンクラシック～伊勢志摩～ | 11,808 | | |
| 浜島町 | 浜島温泉街 | 31,173 | 328,961 | 410,698 |
| | 機体験施設「海ほおずき」 | 20,564 | | |
| | 伊勢えび祭 | 30,000 | | |
| 大王町 | ともやま公園 | 32,990 | 105,014 | 215,717 |
| | 大王埼灯台 | 52,713 | | |
| | 年末海族市 | 25,000 | | |
| 志摩町 | 志摩旅館街 | 10,641 | 61,170 | 144,187 |
| | 御座白浜海水浴場 | 72,376 | | |
| 合計 | | 2,305,689 | 1,422,163 | 3,727,852 |

表 7. 平成 27 年の志摩市における観光入込客数（資料出所：志摩市）

3) 既存掲載ページ

32 ページ 「2-1. 志摩市を訪れる観光客数」

20. 志摩市を訪れる日帰り客と宿泊客の推移

1) 説明文

平成 17 年からの全国観光統計基準に基づく志摩市への入込客数について、日帰り客と宿泊客に分けて、その数の推移を示したグラフが、**図 26** です。

志摩市への入込客は、平成 17 年から平成 22 年までは 400 万人以上を維持してきましたが、日帰り客が徐々に減少して平成 23 年に 400 万人を下回り、近年は 380 万人程度で推移しています。日帰り客数については、ほぼ一貫して減少傾向にありますが、宿泊客数については、120～130 万人で推移した後、平成 25 年からは 140～150 万人で推移しています。

平成 17 年に 33%だった入込客数に占める宿泊客数の割合は、減少する傾向にありましたが、平成 25 年に 38%に増加してからは平成 27 年も同水準を維持しています。

2) 図・表

平成 27 年のデータを追加

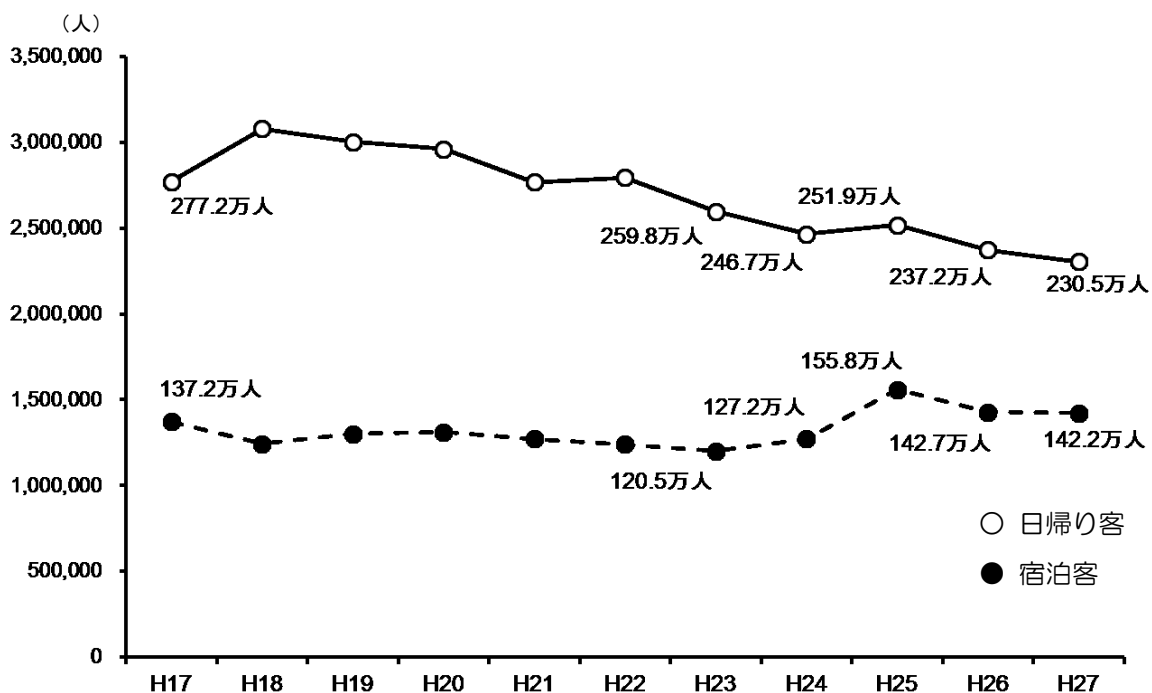


図 26. 志摩市を訪れる日帰り客と宿泊客の推移 (資料出所: 志摩市)

3) 既存掲載ページ

33 ページ 「2-1. 志摩市を訪れる観光客数」

21. 各地区の日帰り客が全日帰り客に占める割合

1) 説明文（修正なし）

志摩市の日帰り客に占める各地区の日帰り客の割合を示した表が、表 8 です。

日帰り客のおよそ 70%が訪れている地区が、磯部町です。これは、志摩スペイン村を訪れる観光客によるものと考えられます。その他に比較的来訪者が多い地区は、日帰り客のおよそ 15%が訪れている阿児町です。これは、観光施設が集まっている賢島や志摩市内で最も利用者の多い鵜方駅があるためと考えられます。一方、浜島町は、近年日帰り客が減少する傾向にあります。また、大王町及び志摩町は、比較の日帰り客が少ない地区です。

2) 図・表

平成 27 年のデータを追加

| (%) | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 磯部町 | 68.33 | 64.20 | 65.04 | 64.57 | 67.26 | 62.04 | 65.38 | 66.88 | 71.17 | 72.43 | 70.83 |
| 阿児町 | 9.86 | 15.24 | 15.42 | 15.48 | 15.12 | 15.41 | 15.34 | 15.64 | 16.24 | 15.05 | 17.22 |
| 大王町 | 4.43 | 3.70 | 4.71 | 5.73 | 4.78 | 6.59 | 6.86 | 5.06 | 5.10 | 5.36 | 4.80 |
| 浜島町 | 11.26 | 11.10 | 9.12 | 7.98 | 7.97 | 9.82 | 8.82 | 8.39 | 3.76 | 3.67 | 3.55 |
| 志摩町 | 6.12 | 5.76 | 5.71 | 6.25 | 4.88 | 6.15 | 3.61 | 4.02 | 3.73 | 3.48 | 3.60 |

表 8. 各地区の日帰り客が全日帰り客に占める割合（資料出所：志摩市）

3) 既存掲載ページ

34 ページ 「2-2. 志摩市を訪れる観光客の来訪先」

22. 各地区の宿泊客が全宿泊客に占める割合

1) 説明文

志摩市の宿泊客に占める各地区の宿泊客の割合を示した表が、表9です。

宿泊客の約 35%は阿児町に、約 30%は磯部町に、約 23%は浜島町に宿泊しており、3地区で宿泊客全体の 87%が占められています。大王町及び志摩町については、日帰り客に加えて、宿泊客も少ない傾向にあると言えます。

2) 図・表

平成 27 年のデータを追加

| (%) | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 阿児町 | 31.42 | 32.45 | 36.73 | 34.86 | 36.27 | 36.28 | 35.20 | 33.13 | 35.36 | 35.14 | 35.60 |
| 磯部町 | 31.08 | 31.00 | 29.25 | 30.51 | 29.42 | 32.74 | 30.86 | 30.73 | 30.28 | 29.76 | 29.58 |
| 浜島町 | 23.31 | 24.12 | 24.28 | 21.74 | 21.75 | 18.75 | 20.11 | 22.76 | 22.86 | 23.76 | 23.13 |
| 大王町 | 8.79 | 7.48 | 5.05 | 8.34 | 8.00 | 7.93 | 8.66 | 8.49 | 7.69 | 7.09 | 7.38 |
| 志摩町 | 5.40 | 4.95 | 4.68 | 4.56 | 4.56 | 4.31 | 5.17 | 4.89 | 3.80 | 4.25 | 4.30 |

表9. 各地区の宿泊客が全宿泊客に占める割合 (資料出所: 志摩市)

3) 既存掲載ページ

34 ページ 「2-2. 志摩市を訪れる観光客の来訪先」

23. 志摩市の各地区別の宿泊施設数と収容人員数

1) 説明文（修正なし）

志摩市内の宿泊施設数と収容人員を各地区別に示した表が、表 10 です。

市内各地区における宿泊施設数は、阿児町で最も多く、次いで志摩町、大王町の順となっており、磯部町及び浜島町は同数で最も少なくなっています。一方、市内各地の収容人員数については、阿児町で最も多く、次いで磯部町、志摩町、浜島町及び大王町の順となっています。このことから、志摩町及び大王町は、宿泊施設は比較的多いものの規模の小さな旅館や民宿が多い地区であり、磯部町及び浜島町は、宿泊施設は少ないものの規模の大きな旅館やホテルがある地区であると言えます。

2) 図・表

平成 27 年のデータに更新

| | | 志摩市 | 阿児町 | 志摩町 | 大王町 | 磯部町 | 浜島町 |
|-------------------------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 国際観光ホテル整備法 登録ホテル | 施設数 | 8 | 3 | - | 1 | 3 | 1 |
| | 収容人員 | 2,612 | 593 | - | 352 | 1,561 | 106 |
| 国際観光ホテル整備法 登録旅館 | 施設数 | 11 | 5 | - | 1 | 2 | 3 |
| | 収容人員 | 2,929 | 1,632 | - | 350 | 330 | 617 |
| 日本旅館協会 | 施設数 | 5 | 3 | 1 | - | 1 | - |
| | 収容人員 | 349 | 187 | 80 | - | 82 | - |
| 普通旅館 (ビジネスホテル含む) | 施設数 | 61 | 27 | 8 | 9 | 13 | 4 |
| | 収容人員 | 4,397 | 1,328 | 342 | 584 | 1,029 | 1,114 |
| 民宿 | 施設数 | 49 | 15 | 21 | 7 | 1 | 5 |
| | 収容人員 | 1,269 | 317 | 665 | 155 | 20 | 112 |
| ユースホステル | 施設数 | 1 | - | - | - | 1 | - |
| | 収容人員 | 80 | - | - | - | 80 | - |
| 保養所 | 施設数 | 11 | 9 | - | - | - | 2 |
| | 収容人員 | 245 | 184 | - | - | - | 61 |
| ペンション | 施設数 | 9 | 5 | 1 | 1 | - | 2 |
| | 収容人員 | 192 | 124 | 20 | 16 | - | 32 |
| オートキャンプ場 キャンプ場・バンガロー | 施設数 | 14 | 1 | 11 | 1 | 1 | - |
| | 収容人員 | 1,483 | 13 | 518 | 600 | 352 | - |
| 施設数の合計 | | 169 | 68 | 42 | 20 | 22 | 17 |
| | % | | 40.24 | 24.85 | 11.83 | 13.02 | 10.06 |
| 収容人員の合計 | | 13,556 | 4,378 | 1,625 | 2,057 | 3,454 | 2,042 |
| | % | | 32.30 | 11.99 | 15.17 | 25.48 | 15.06 |

表 10. 志摩市の各地区別の宿泊施設数と収容人員数（資料出所：志摩市）

3) 既存掲載ページ

35 ページ 「2-3. 志摩市内の宿泊施設と収容人員」

24. 平成 27 年の志摩市、鳥羽市及び伊勢市の観光客数の月別割合

1) 説明文

平成 27 年の志摩市の観光客数の月別割合を、近隣の鳥羽市及び伊勢市と比較したグラフが、図 27 です。図中の括弧内の数字は、総入込客数です。

志摩市と鳥羽市の入込客数については、7月に増加をしまして8月に大きなピークを迎え、3月及び5月に小規模なピークがあり、10月から11月にかけても緩やかに増加するという傾向がみられます。ただし、志摩市では鳥羽市よりも夏場（特に8月）に極端なピークを迎えています。

一方、伊勢市では1月にピークを迎えた後は、主だったピークは見られず、比較的安定して推移していることが分かります。

2) 図・表

平成 27 年のデータに更新

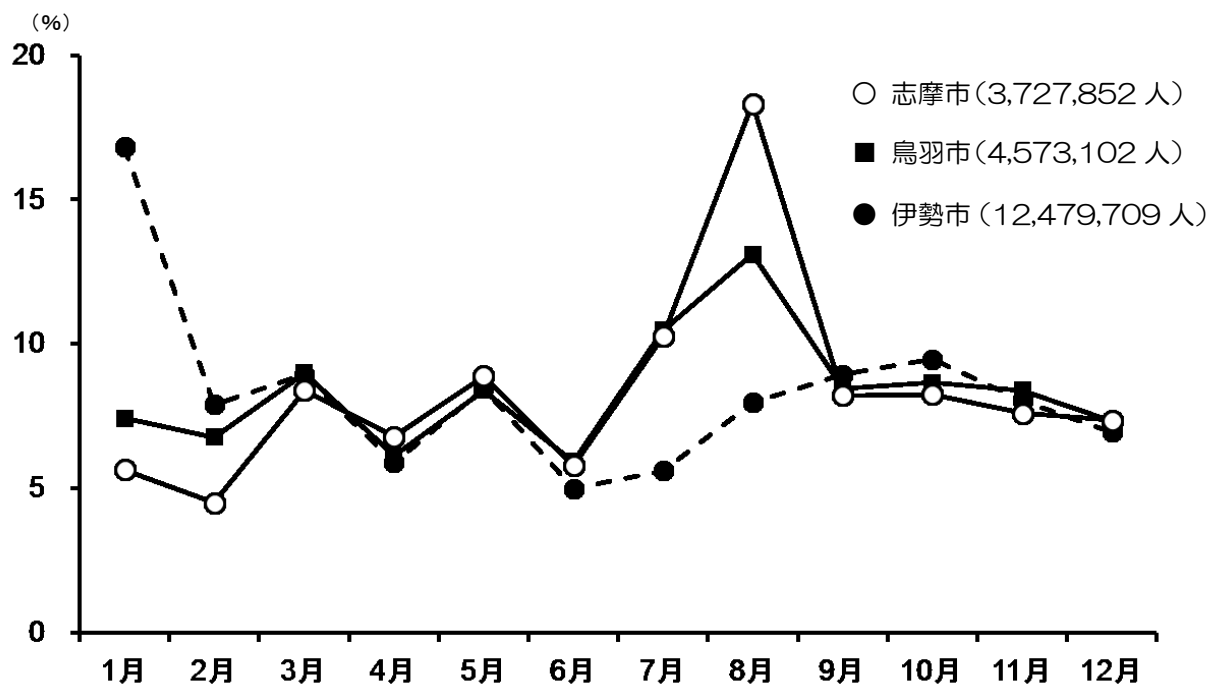


図 27. 平成 27 年の志摩市、鳥羽市及び伊勢市の観光客数の月別割合

(資料出所：平成 27 年 観光レクリエーション入込客数推定書 三重県)

3) 既存掲載ページ

36 ページ 「2-4. 志摩市を訪れる観光客の来訪時期」

25. 志摩市を訪れる観光客の平均消費額

1) 説明文

志摩市を訪れる観光客の観光消費額を概観するために、伊勢志摩地域を訪れる観光客の平均利用額の推移を滞在種別に示した表が、表 13 です。また、宿泊客の宿泊費、飲食費及び土産代の推移、並びに、日帰り客の飲食費及び土産代の推移を示した表が、それぞれ表 14 及び表 15 です。

平成 21 年度以降の宿泊客及び日帰り客の利用額は、宿泊客で 30,000 円～35,000 円、日帰り客で 9,000 円～10,000 円で推移しています。

平成 21 年以降では、宿泊客が宿泊、飲食及びお土産に支払う料金は 27,000 円程度となっており、日帰り客が飲食及びお土産に支払う料金は 5,700 円程度となっていて、宿泊客と日帰り客では 20,000 円以上も利用額に差があります。

2) 図・表

平成 27 年のデータの追加

| | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 宿泊客 | 44,978 | 33,030 | 30,648 | 35,646 | 33,019 | 35,831 | 32,394 | 34,280 |
| 日帰り客 | 12,587 | 9,254 | 8,719 | 9,010 | 10,025 | 10,022 | 8,740 | 8,508 |
| 未記入 | 20,891 | 13,880 | 3,843 | 11,800 | 0 | 0 | 0 | 0 |

表 13. 伊勢志摩地域を訪れる観光客の滞在種別平均利用額の推移

(資料出所：観光客実態調査報告書 三重県)

| | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 宿泊費 | 18,475 | 13,844 | 11,739 | 14,543 | 16,505 | 15,958 | 16,538 | 16,310 |
| 飲食費 | 6,835 | 5,026 | 4,511 | 5,211 | 5,191 | 5,714 | 4,783 | 5,732 |
| 土産代 | 8,870 | 5,940 | 7,451 | 8,644 | 4,540 | 6,622 | 4,534 | 5,972 |
| 合計 | 34,180 | 24,810 | 23,701 | 28,398 | 26,236 | 28,294 | 25,855 | 28,014 |

表 14. 伊勢志摩地域を訪れる宿泊客の宿泊費、飲食費及び土産代の推移

(資料出所：観光客実態調査報告書 三重県)

| | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 飲食費 | 2,987 | 2,850 | 2,511 | 2,254 | 2,959 | 3,015 | 2,430 | 2,733 |
| 土産代 | 4,056 | 2,013 | 2,442 | 3,628 | 2,850 | 4,100 | 2,609 | 2,180 |
| 合計 | 7,043 | 4,863 | 4,953 | 5,882 | 5,809 | 7,115 | 5,039 | 4,913 |

表 15. 伊勢志摩地域を訪れる日帰り客の飲食費及び土産代の推移

(資料出所：観光客実態調査報告書 三重県)

26. 志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れた外国人宿泊客数の推移

1) 説明文

志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れる外国人宿泊客の推移を示したグラフが、**図 29**です。伊勢志摩地域においては、特に志摩市に宿泊する外国人が多く、またその増加幅も大きくなっています

2) 図・表

平成 27 年のデータの追加

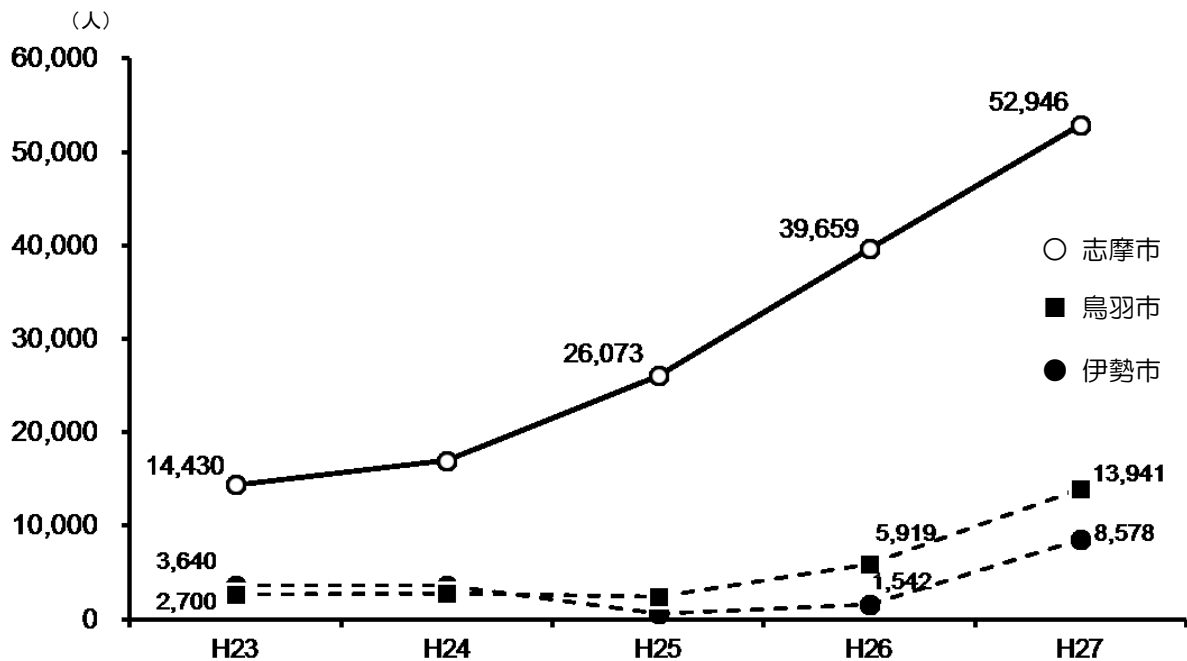


図 29. 志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れた外国人宿泊客数の推移

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

3) 既存掲載ページ

40 ページ 「2-7. 志摩市を訪れる外国人観光客」

27. 平成 27 年に志摩市を訪れた外国人宿泊客の来訪元

1) 説明文

平成 27 年に志摩市を訪れた外国人宿泊客の来訪元を割合で示したグラフが、**図 30** です。志摩市を訪れる外国人観光客のうち、87%が中国及び台湾を中心とした東アジアからの観光客となっています。一方、シンガポール、タイなどの東南アジアからの観光客は 6.5%であり、欧州や北米からの観光客はわずか 2.6%にとどまっています。平成 26 年は、台湾からの宿泊客が 46.0%を占めていましたが、平成 27 年は中国からの宿泊客が約 38%となっています。

2) 図・表

平成 27 年のデータに更新

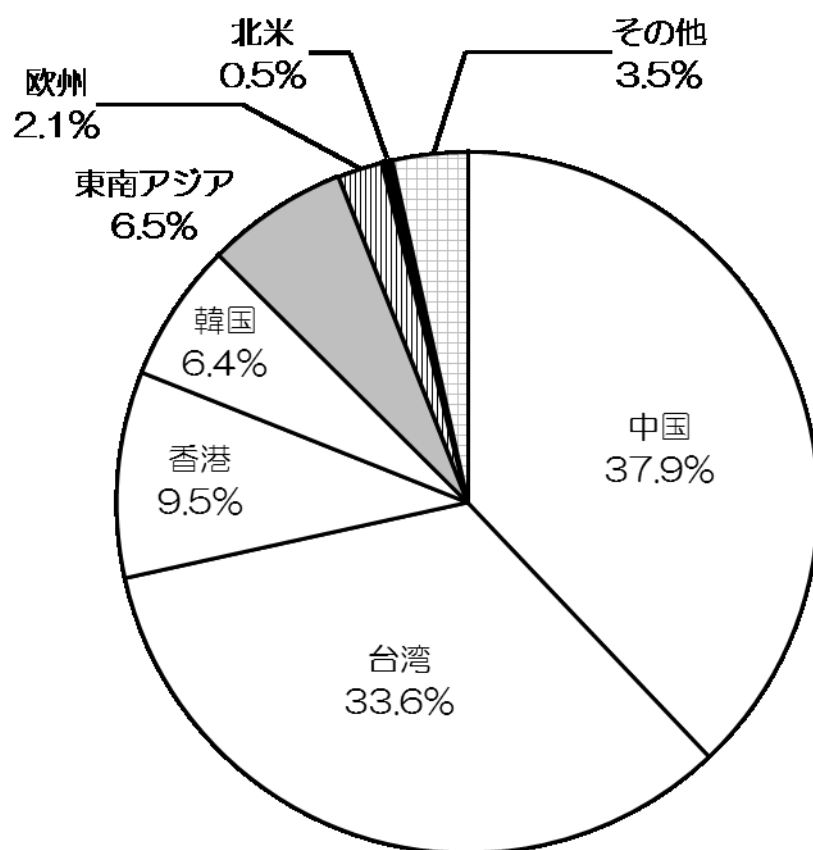


図 30. 平成 27 年に志摩市を訪れた外国人宿泊客の来訪元

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

3) 既存掲載ページ

40 ページ 「2-7. 志摩市を訪れる外国人観光客」

28. 志摩市を訪れた外国人宿泊者数の国別推移

1) 説明文

志摩市を訪れる外国人宿泊客数について来訪元別にその推移を示した表が、表 16 です。
 統計がとられた平成 23 年当初より、本市には台湾、中国、香港、韓国など東アジアからの観光客が多く訪れており、近年は、シンガポール、タイ、ベトナムなど東南アジアを中心にその数が伸びています。このことから、東アジアからの観光客は安定して増加を示している一方、さらなる増加が期待されるのは東南アジアからの観光客であると考えられます。

また、欧州からの観光客については近年増加する傾向にありますが、北米からの観光客については顕著な増加傾向にあるとは言えません。

2) 図・表

平成 27 年のデータの追加

| | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 東アジア | 13,790 | 14,600 | 22,690 | 33,817 | 44,567 |
| 台湾 | 5,570 | 7,870 | 10,494 | 17,702 | 17,138 |
| 中国 | 5,280 | 3,190 | 5,369 | 10,863 | 19,317 |
| 香港 | 1,880 | 2,650 | 5,137 | 3,759 | 4,845 |
| 韓国 | 1,060 | 890 | 1,690 | 1,493 | 3,267 |
| 東南アジア | 10 | 380 | 429 | 2,262 | 3,325 |
| シンガポール | 0 | 250 | 234 | 1,217 | 1,830 |
| タイ | 10 | 130 | 195 | 1,045 | 942 |
| ベトナム | - | - | 0 | 0 | 553 |
| 欧州 | 130 | 470 | 468 | 784 | 1,056 |
| ドイツ | 20 | 140 | 342 | 431 | 47 |
| イギリス | 80 | 20 | 39 | 246 | 63 |
| フランス | 30 | 310 | 86 | 106 | 946 |
| 北米 | 280 | 730 | 479 | 398 | 240 |
| アメリカ | 280 | 720 | 460 | 370 | 216 |
| カナダ | 0 | 10 | 19 | 28 | 24 |
| その他 | 190 | 730 | 1,815 | 1,155 | 1,769 |
| 合計 | 14,400 | 16,910 | 25,881 | 38,415 | 50,957 |

表 16. 志摩市を訪れた外国人宿泊者数の国別推移

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

3) 既存掲載ページ

41 ページ 「2-7. 志摩市を訪れる外国人観光客」

29. 平成 27 年の志摩市を訪れた外国人宿泊者数の月別割合

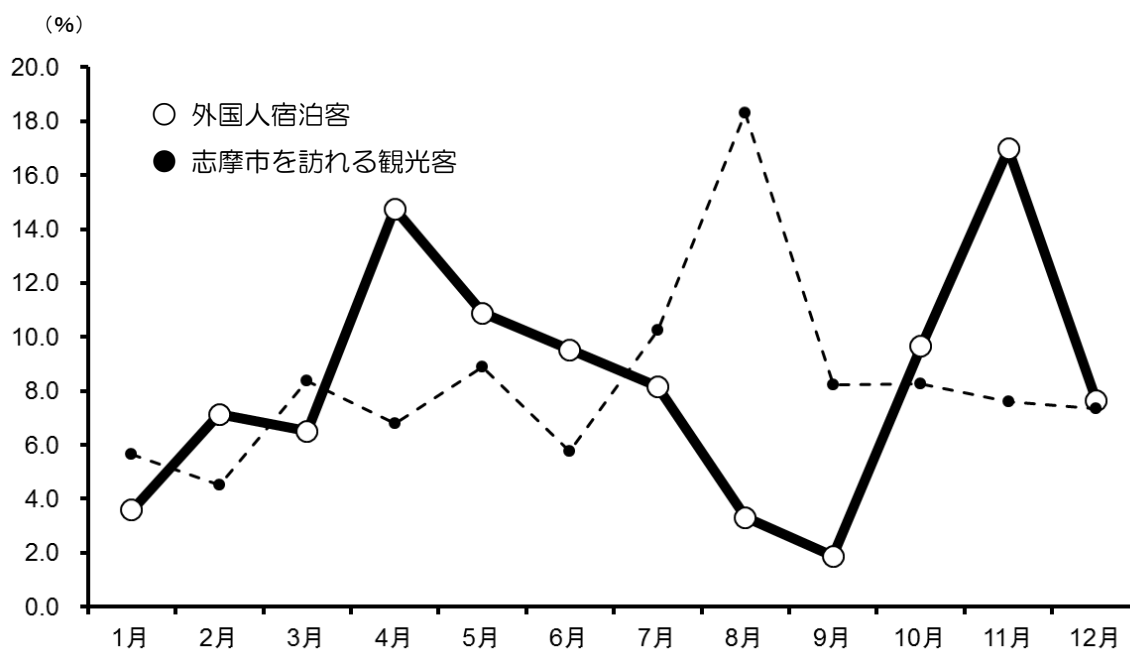
1) 説明文

平成 27 年の志摩市の外国人宿泊客数の月別割合を示したグラフが、**図 31** です。

4月及び11月に大きなピークがあり、1月と8月から9月は少なくなるという傾向がみられます。日本を訪れる外国人観光客は桜の季節の4月と紅葉の季節の11月に多くが訪れており、その時期と合致しています。また、志摩市を訪れる月別来訪者の割合と比較すると、観光客が比較的少ない4月と10月から11月に、外国人宿泊客のピークがあることがわかります。

2) 図・表

平成 27 年のデータに更新
志摩市を訪れる観光客データを追加



志摩市を訪れる観光客の月別来訪者割合を追加

図 31. 平成 27 年の志摩市を訪れた外国人宿泊者数の月別割合

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

3) 既存掲載ページ

41 ページ 「2-8. 志摩市を訪れる外国人観光客の来訪時期」

30. 高校生アンケート結果 志摩市の良いところ

1) 図・表

平成 28 年のアンケート結果に更新

| 項目 | 件数 | 主な内容 |
|-----|-----|-------------------------|
| 自然 | 308 | 自然がきれい・豊か、自然が身近に感じられる |
| 人 | 130 | 人が親切で優しい、仲が良い |
| まち | 75 | 平和で安全、まちが静か、まち（街並み）がきれい |
| 雰囲気 | 70 | まちの雰囲気がよい、のどかな雰囲気 |
| 食 | 28 | 食べ物がおいしい、おいしいものがたくさんある |
| その他 | 6 | |
| 合計 | 617 | |

表 19. 高校生アンケート結果 志摩市の良いところ

2) 既存掲載ページ

56 ページ 「3) 高校生アンケート」

31. 高校生アンケート結果 志摩市の良くした方がいいところ

1) 図・表

平成 28 年のアンケート結果に更新

| 項目 | 件数 | 主な内容 |
|------|-----|--------------------------------|
| 商店 | 201 | 店を増やした方がよい |
| 公共交通 | 184 | 公共交通を充実した方がよい、電車の路線を延長した方がよい |
| 人 | 29 | 人口（若者）を増やした方がよい |
| まち | 29 | まちを活性化した方がよい、古い家を壊した方がよい |
| 自然 | 27 | 自然を大切にされた方がよい、川・海をきれいにした方がよい |
| 公共施設 | 23 | 街灯を増やした方がよい、公園を増やした方がよい |
| 観光 | 23 | 観光地を増やした方がよい、まち（観光地）をPRしたほうがよい |
| 娯楽 | 18 | 遊ぶ場所（若者が好む場所）を増やした方がよい |
| 仕事 | 16 | 働く場所を増やした方がよい |
| その他 | 45 | |
| 合計 | 595 | |

表 20. 高校生アンケート結果 志摩市の良くした方がいいところ

2) 既存掲載ページ

56 ページ 「3) 高校生アンケート」

32. 高校生アンケート結果 20年後に期待する志摩市の姿

1) 図・表

平成28年のアンケート結果に更新

| 項目 | 件数 | 主な内容 |
|-----|-----|-----------------------------|
| 人口 | 206 | 人口が増えていて欲しい、子どもや若者が増えていて欲しい |
| まち | 121 | 活性化していて欲しい、より住みやすくなっていて欲しい |
| 活気 | 75 | まちに活気があって欲しい |
| 商店 | 59 | 店が増えていて欲しい |
| 自然 | 26 | 自然が維持されていて欲しい、海がきれいであって欲しい |
| その他 | 64 | |
| 合計 | 551 | |

表 21. 高校生アンケート結果 20年後に期待する志摩市の姿

2) 既存掲載ページ

57 ページ 「3) 高校生アンケート」